

FISHING トピック No.29

うみ 海のゆりかご

期間限定で
展示予定



今年も北九州市立水環境館のイベント「もじの海岸で磯遊び！水辺の生き物調査」が当施設（もじ少年自然の家）で開催されました。20名の参加者の皆様と一緒に磯の生き物の大調査！海は白波が立ち大荒れ。生き物が観察できるか心配していましたが…マアナゴやウミウシ、マダコなど様々な生き物を見つけました。楽しく生き物を探して



干潟を歩いていると…アマモを発見！大潮の潮が引いた時にだけ観察できる海草です。茎の部分をかじるとほんのり甘いことから『甘藻』という名前がついたとか！また、「リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ（竜宮の乙姫の元結の切りはずし）」とも呼ばれ、植物で最も長い別名があることでも有名です。このアマモがたくさん生えている場所を「アマモ場」といいます。アマモ

場は魚やイカなどの生き物たちの産卵場所、天敵や潮の流れから身を守るための場所として使われています。ちなみに…潮に流されてしまわないようアマモをくわえて寝る魚もいるそうですよ！アマモ場で生まれた稚魚たちの多くはアマモに守られながら大きく育っていくことからアマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれています。海の生き物たちにとってアマモ場なくてはならない場所なのです。それだけではなくアマモ場は海の環境をよくする働きもしています。アマモはキレイな海でないと育たないため海岸の指標生物（水質を判定するとき

に調べる対象とする生き物）としても知られる植物です。近年、海が汚れていきアマモの数が減少傾向にあります。現在はそんなアマモ場を復活させる活動が盛んに行われています。喜多久干潟にはごくわずかししか生えていませんが、喜多久干潟に遊びに来た際は、ぜひ観察してみてくださいね♪
※潮が満ちている時は観察できないので注意しよう

